

平成 27 年 10 月 21 日
火山噴火予知連絡会

火山噴火予知連絡会コア解析グループの再設置について

平成 26 年度補正予算による気象庁のボアホール型火山観測施設及び火口周辺への傾斜計の整備に伴い採取された火山地域のボーリングコアを解析し、火山噴火予知研究及び火山防災対策に役立てるため、以下のとおり火山噴火予知連絡会に平成 21 年 6 月 18 日に設置し平成 23 年 3 月 31 日に解散した、火山地域のボーリングコアを解析するグループ（以下「コア解析グループ」という）を再設置した。

1. 参加機関(メンバー)及び主査

- ① 火山噴火予知連絡会委員及び臨時委員の属する機関の職員並びにコア解析グループ主査が認めたメンバー。
- ② 藤井火山噴火予知連絡会会長からコア解析グループの主査として中田節也東京大学地震研究所教授が指名された。

2. 設置期間

平成 27 年 10 月 21 日に設置し、全てのコアの一次記載の火山噴火予知連絡会への報告をもって解散する。

3. コア解析グループの任務

- ① ボーリングコアの採取に当たって、良好なコアを採取するための支援
- ② 採取したコアの一次記載
- ③ コアを利用した研究の実施及び研究成果の公表に当たってのルールを作成（産業技術総合研究所の協力のもと、同研究所のコア試料の利用ルールに沿ったルールを作成）

4. コア解析グループの運営及びコアの利用目的等

- ① コア採取の支援及び一次記載
良好なコアの採取、コア解析の速やかな実施のため、火山ごとに担当者を定める。担当者は、コア採取後 1 年程度を目処に一次記載を行い、火山噴火予知連絡会に報告する。
- ② コアの利用目的等
 - ・ コア試料は、噴火履歴やマグマ発達史解読など噴火予知研究のために利用することを原則とする。
 - ・ 一次記載や、その後の研究成果は、関係機関による火山ハザードマップや噴火シナリオの検討など火山防災に活用される。